

4. 史学科

史学科は、文字資料ならびに考古資料・文化遺産・文化景観などの非文字物質資料を駆使して過去の人間社会・文化とその歴史を明らかにし、歴史遺産の継承と活用を通じた社会と文化の豊かな創造を追究するとともに、研究・分析の過程で修養される「歴史的思考」を身につけた、社会に有用な人材を育成することを目的とする。

史学科には「日本史学」「外国史学」「考古学」「地域文化と景観」の4つのコースがあり、それぞれのコースによって専門教育科目の履修方法が異なる。史学科の専門教育の基幹となる2・3・4年次の演習は、きめ細かい指導を徹底するため定員制をとる。また各コースには、将来の進路設計によってStandard Career Program (S-プログラム) と Professional Career Program (P-プログラム) が用意されており、プログラムごとに履修すべき科目が異なっている。学生は、自分の興味・関心に従っていずれかのコースを選択し、かつ将来どのような職業に就きたいかという観点からどちらかのプログラムを選択し、履修規程に基づいて単位を修得しなければならない。

また、さまざまな言語で書かれた史料や論文の読解に加え、国際的な発信力とコミュニケーション能力を修養することが、これからの史学科学生にとって必須の資質になるとの教学方針から、選択必修科目として第二外国語を課している。

【卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

A 知識・技能

- (DP-A1) 歴史を科学的に考えるための知識を有する。
- (DP-A2) 史・資料を読み解くための技術や語学力を有する。
- (DP-A3) 歴史的遺物から歴史的考察に必要となる情報を取得することができる。

B 思考力・判断力・表現力

- (DP-B1) 史・資料から得られた情報をもとに、歴史的事象を考察することができる。
- (DP-B2) 独自性のある意見を、客観的根拠にもとづき、導き出すことができる。
- (DP-B3) 学修の成果を個性豊かな文章で発表することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- (DP-C1) 歴史的諸問題に対し主体的に取り組み、創造性を発揮することができる。
- (DP-C2) 他者に配慮しながら、共同して目標を達成することができる。
- (DP-C3) 他者の意見をとりいれながら、みずからの意見を組み立てることができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与します。

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

科目群		卒業認定・学位授与方針（DP）									各科目群の教育目標
		知識・技能			思考力・判断力 ・表現力			主体性を保持し つつ多様な人々と 協働して学ぶ 態度			
		A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	
基幹科目	史学入門	◎			○						歴史学を学ぶ上で根底となる能力を、到達段階に合わせて、総合的に学修する。
	史学導入演習	○			○			◎			
	史学基礎演習		○		○				◎		
	史学展開演習			○			○		◎		
	史学応用演習			○			○			◎	
	演習・卒業論文			○				◎		○	
基幹科目 コース別	概論	◎			○						歴史学を学ぶ上で必要な専門的知識・技能を学修する。
	時代史・地域史・各論		○				◎				
科目 総合	講読・実習・調査法・史学専門講義			◎				◎		○	歴史学の総合的な学びに必要な専門的かつ高度な知識・技能を実践的に学修する。
展開科目		○	○		○					◎	歴史学を発展的に理解する上で必要な能力を学修する。
関連科目		○	○		◎	◎					

【史学科の4コース】

日本史学コース

日本の古代から近現代に至る各時代の史実とその意義を、厳密な史料批判に基づいて研究し、それぞれの時代における政治・社会構造や文化の歴史的特質などを明らかにするための知識や方法論を身につける。

外国史学コース

朝鮮半島から北アフリカ（イスラム時代以後）までの各地域（いわゆる東洋）と、ヨーロッパからアメリカまでの各地域（いわゆる西洋）の歴史を研究対象とし、語学の修得を基礎としてその政治・社会構造や文化の歴史的特質などを明らかにするための知識や方法論を身につける。

考古学コース

考古学の方法論や発掘調査法などの実践的な知識・技術を学び、遺跡や出土遺物などの物質資料から過去の人類文化とその歴史を読み解くための視座と方法を身につける。なお所定の単位を修得することにより、考古調査士資格認定機構による「考古調査士2級」資格を取得できる。

地域文化と景観コース

歴史の痕跡を深く刻み込んだ文化財や絵図・古地図、地名や景観、地域の信仰や芸能などの調査・分析を通じて、風土と歴史の中で培われてきた地域固有の文化を多面的に究明し、地域文化を将来に継承してゆくための知識と方法論を身につける。

【2つのプログラム】

ここでいうプログラムとは、上記の4コースとは別に、将来どのような職業に就きたいかという観点から学生自身が選択するカリキュラム群で、両プログラムは卒業に必要な科目に相違はあるものの、両者の間に優劣や難易の別はなく、演習などの授業も両プログラム合同で行われ、いずれも卒業論文が課される。

Standard Career Program (S-プログラム)

特定の時代や地域にとらわれず、歴史学を幅広く学んで人生に活かし、将来は公務員や一般企業への就職を考えている学生のためのカリキュラム群で、歴史学の専門科目のほかに、社会人の素養となる語学や社会科学系科目（法学、経済学など）を数多く履修するプログラムとなっている。このプログラムでも、教員免許・学芸員資格などの取得は可能である。

Professional Career Program (P-プログラム)

大学院への進学、もしくは教職・学芸員など専門職を目指している学生のためのカリキュラム群で、幅広くしっかりと歴史の専門知識を修得できるよう、専門科目の基幹科目・コース別基幹科目・総合科目から52単位以上を履修することになっている。このプログラムでは、教員免許または学芸員資格の取得を学生に推奨しており、それに適したカリキュラムが組まれている。

【コースとプログラムの選択】

コースの選択

コースの選択は、2年次の前期履修登録時にK-SMAPYⅡにて行うが、コースの最終的な決定は3年次の前期履修登録時となる。それ以降に変更の希望があった場合は、教務委員及び指導教員との面接によって決定する。なお、卒業論文の作成上、3年次と4年次のコースは同一が望ましい。

プログラムの選択

プログラムの選択は、2年次の前期履修登録時に行い、原則として3年次の前期履修登録時のみ変更可能である。なお、プログラムの選択及び変更手続きは、2年次の前期履修登録時まではK-SMAPYⅡ、それ以降に変更を希望する場合は、教務委員及び指導教員との面接によって決定する。

【カリキュラムの構成と履修方法】

基幹科目 28単位

史学科共通の基幹科目群で、「史学入門Ⅰ・Ⅱ」「史学導入演習Ⅰ・Ⅱ」「史学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」「史学応用演習Ⅰ・Ⅱ」「演習・卒業論文」がこれに該当する。なお、「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」と「史学応用演習Ⅰ・Ⅱ」は、卒業論文の作成上、同一教員による指導が望ましい。

また「史学導入演習Ⅱ」「史学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」「史学応用演習Ⅰ・Ⅱ」は、シラバスの「授業のテーマ」で示される内容が異なる場合には、教員の許可を得て複数受講することができる（超過単位は展開科目へ算入）。

コース別基幹科目 S-プログラムは8単位以上、P-プログラムは16単位以上

史学科の学修にとって基本となる選択必修科目群である。「概論」科目から自分のコースの2科目4単位以上、「コース」科目からS-プログラムは自身の選択しているコースから2単位を含め合計4単位以上、P-プログラムは自身の選択しているコースから8単位を含め12単位以上を修得しなければならない（超過単位は展開科目へ算入）。

総合科目 8単位以上

史学科における学修の根幹となる史資料の調査・研究にかかる選択必修科目群である。重複履修が可能であり、合計8単位以上を修得しなければならない（超過単位は展開科目へ算入）。

展開科目・関連科目 S-プログラム20単位以上、P-プログラム12単位以上

自由に選択できる選択科目群で、展開科目・関連科目の2つのカテゴリーからなる。展開科目は史学科の専門科目、関連科目は史学科以外の専門科目である。

【定員制の演習（ゼミ）】

2年次の「史学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3年次の「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「史学応用演習Ⅰ・Ⅱ」は、演習発表や卒業論文中間発表など学生自身による研究発表と討論を中心に進められるため、各ゼミ20人程度の定員制とする。「史学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は1年次の後期、「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」は2年次の後期に開くガイダンスで事前登録を行う。

【考古調査士資格について】

考古調査士資格とは、遺跡発掘調査にあたる調査士の資格で、全国の大学・研究機関共通の統一的な資格審査機構である「考古調査士資格認定機構」が授与する。本学は同機構に加盟しており、所定の科目を履修し単位修得した学生は、考古調査士資格（2級）を申請・取得できる。

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				考古調査士※		履修方法	備考		
				1	2	3	4	科目群	区分				
基幹科目	史学入門Ⅰ	半期	2	○						28単位必修	原則として同一指導教員の授業を履修すること		
	史学入門Ⅱ	半期	2	○									
	史学導入演習Ⅰ	半期	2	○									
	史学導入演習Ⅱ	半期	2	○									
	史学基礎演習Ⅰ	半期	2		○								
	史学基礎演習Ⅱ	半期	2		○								
	史学展開演習Ⅰ	半期	2			○		Ⅱ	必修				
	史学展開演習Ⅱ	半期	2			○		Ⅱ	必修				
	史学応用演習Ⅰ	半期	2				○						
	史学応用演習Ⅱ	半期	2				○						
演習・卒業論文	通年	8				○							
概論科目	日本史概論Ⅰ	半期	2	○						日本史学コース選択者は、「日本史概論Ⅰ・Ⅱ」 外国史学コース選択者は、「東洋史概論Ⅰ・Ⅱ」または「西洋史概論Ⅰ・Ⅱ」 考古学コース選択者は、「考古学概論Ⅰ・Ⅱ」 地域文化と景観コース選択者は、「地域文化と景観概論Ⅰ・Ⅱ」 計4単位以上を選択必修 超過単位は展開科目へ算入			
	日本史概論Ⅱ	半期	2	○									
	東洋史概論Ⅰ	半期	2	○									
	東洋史概論Ⅱ	半期	2	○									
	西洋史概論Ⅰ	半期	2	○									
	西洋史概論Ⅱ	半期	2	○									
	考古学概論Ⅰ	半期	2	○				Ⅰ	選択				
	考古学概論Ⅱ	半期	2	○									
	地域文化と景観概論Ⅰ	半期	2	○									
	地域文化と景観概論Ⅱ	半期	2	○									
日本史学コース	日本時代史Ⅰ	半期	2	○						S-プログラム選択者は、 選択したコース中の 2単位を含め、 計4単位以上選択必修 P-プログラム選択者は、 選択したコース中の 8単位を含め、 計12単位以上選択必修 超過単位は展開科目へ算入			
	日本時代史Ⅱ	半期	2	○									
	日本時代史Ⅲ	半期	2	○									
	日本時代史Ⅳ	半期	2	○									
	日本時代史Ⅴ	半期	2	○									
	日本時代史Ⅵ	半期	2	○									
	日本時代史Ⅶ	半期	2	○									
	日本時代史Ⅷ	半期	2	○									
	外国史学コース	東洋地域史Ⅰ	半期	2	○								
		東洋地域史Ⅱ	半期	2	○								
東洋地域史Ⅲ		半期	2	○									
東洋地域史Ⅳ		半期	2	○									
西洋地域史Ⅰ		半期	2	○									
西洋地域史Ⅱ		半期	2	○									
西洋地域史Ⅲ		半期	2	○									
西洋地域史Ⅳ		半期	2	○									
考古学コース	考古学各論Ⅰ	半期	2	○					Ⅲ	選択			
	考古学各論Ⅱ	半期	2	○									
	考古学各論Ⅲ	半期	2	○					Ⅲ	選択			
	考古学各論Ⅳ	半期	2	○									
	考古学各論Ⅴ	半期	2	○					Ⅲ	選択			
	考古学各論Ⅵ	半期	2	○									
	考古学各論Ⅶ	半期	2	○					Ⅲ	選択			
	考古学各論Ⅷ	半期	2	○									
地域文化と景観コース	地域文化各論Ⅰ	半期	2	○									
	地域文化各論Ⅱ	半期	2	○									
	地域文化各論Ⅲ	半期	2	○									
	地域文化各論Ⅳ	半期	2	○									
	文化景観各論Ⅰ	半期	2	○									
文化景観各論Ⅱ	半期	2	○										

(次ページに続く)

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				考古調査士※		履修方法	備考
				1	2	3	4	科目群	区分		
総合科目	史料講読Ⅰ	半期	2			○				計8単位以上選択必修 ※超過単位は展開科目に算入。	重複履修可能
	史料講読Ⅱ	半期	2			○					
	外書講読Ⅰ	半期	2			○					
	外書講読Ⅱ	半期	2			○					
	考古学調査法Ⅰ	半期	2			○		Ⅳ	選択		
	考古学調査法Ⅱ	半期	2			○		Ⅳ	必修		
	考古学実習Ⅰ	集中	1			○		Ⅳ	必修		
	考古学実習Ⅱ	集中	1			○		Ⅳ	必修		
	地域・景観調査法Ⅰ	半期	2			○					
	地域・景観調査法Ⅱ	半期	2			○					
	史学専門講義（日本史）	半期	2			○					
	史学専門講義（東洋史）	半期	2			○					
	史学専門講義（西洋史）	半期	2			○					
	史学専門講義（考古学）	半期	2			○					
史学専門講義（地域文化と景観）	半期	2			○						
展開科目	地域からみた日本の歴史Ⅰ	半期	2	○						S-プログラム選択者は、 展開科目・関連科目から 計20単位以上選択必修 P-プログラム選択者は 展開科目・関連科目から 計12単位以上選択必修	
	地域からみた日本の歴史Ⅱ	半期	2	○							
	地域からみた日本の歴史Ⅲ	半期	2	○							
	地域からみた日本の歴史Ⅳ	半期	2	○							
	東アジア史Ⅰ	半期	2	○							
	東アジア史Ⅱ	半期	2	○							
	江戸東京の歴史	半期	2	○							
	渋谷の歴史	半期	2	○							
	有職故実Ⅰ	半期	2		○						
	有職故実Ⅱ	半期	2		○						
	史学情報処理 初級	半期	2	○							
	史学情報処理 中級	半期	2		○						
	史学情報処理 上級	半期	2		○						
	古文書学Ⅰ	半期	2		○						
	古文書学Ⅱ	半期	2		○						
	史料管理・保存論Ⅰ	半期	2		○						
	史料管理・保存論Ⅱ	半期	2		○						
	文化財行政論	半期	2		○			Ⅴ	選択		
	考古科学	半期	2		○			Ⅵ	選択		
	文化財科学	半期	2		○						
	地域文化資源論	半期	2		○						
	地域文化財資料論	半期	2		○						
	絵図古地図研究	半期	2		○						
	環境史・災害史	半期	2		○						
	日本文化史Ⅰ	半期	2		○						
	日本文化史Ⅱ	半期	2		○						
	美術工芸史	半期	2		○						
	外国考古学Ⅰ	半期	2		○						
外国考古学Ⅱ	半期	2		○							
文化人類学Ⅰ	半期	2		○							
文化人類学Ⅱ	半期	2		○							
人文地理学	半期	2		○							
自然地理学	半期	2		○							
地誌学	半期	2		○							

(次ページに続く)

科目 区分	授業科目	開講	単位	開講学年				考古調査士※		履修方法	備考	
				1	2	3	4	科目群	区分			
関連 科目	倫理学A	半期	2		○					S-プログラム選択者は、 展開科目・関連科目から 計20単位以上選択必修 P-プログラム選択者は 展開科目・関連科目から 計12単位以上選択必修		
	倫理学B	半期	2		○							
	哲学概論A	半期	2			○						
	哲学概論B	半期	2			○						
	日本美術史A	半期	2		○							
	日本美術史B	半期	2		○							
	宗教学Ⅰ	半期	2	○								
	宗教学Ⅱ	半期	2	○								
	国際政治A	半期	2			○						
	国際政治B	半期	2			○						
	政治学概論	半期	2	○								
	社会学A	半期	2				○					
	社会学B	半期	2				○					
	心理学A	半期	2				○					
	心理学B	半期	2				○					
	社会経済学	半期	2		○							
	社会保障論	半期	2		○							
	財政の基礎	半期	2		○							
	金融の基礎	半期	2		○							
	憲法ⅠA	半期	2		○							
	憲法ⅠB	半期	2		○							
	統計入門	半期	2	○								
	現代日本経済	半期	2		○							
	経営史	半期	2		○							

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※考古調査士資格2級（考古調査士資格認定機構公認）取得に必要な科目（「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」は考古学コース用に限定）

資格取得に必要な単位数：Ⅱ群2科目4単位、Ⅳ群3科目4単位、Ⅰ群・Ⅲ群・Ⅳ群（選択）・Ⅴ群・Ⅵ群の中から2科目4単位以上

考古調査士資格の詳細は、本学ホームページで確認してください。